

「日銀ネット」で利用する ISO20022電文の バージョン改訂の実施 (十一月)

▼ISO20022は金融サービス分野におけるメッセージの国際規格であり、従来の電文と比較して、より大量のデータ入力が可能であること、データの構造化が容易であること、システム処理の効率性が向上することが特長です。日本銀行金融ネットワークシステム(日銀ネット)では二〇一五年の全面的なシステム刷新時に、外国為替円決済および海外預り金関係の当座勘定取引においてISO20022電文バージョン3が導入されました。

▼その後、国際銀行間通信協会(SWIFT)では、二〇二三年三月からISO20022電文バージョン8の利用を開始し、二〇二五年十一月までは旧電文とバージョン8が併存する期間とされました。この期間中、各国はISO20022の導入を

進めてきました。

▼日本銀行も、グローバルな相互運用性の確保などの観点から、日銀ネットのバージョン8への改訂に向けたさまざまな企画や開発に取り組み、二〇二五年十一月二十五日に改訂を実施しました。また、本邦金融セクターがバージョン8へ円滑に移行できるように、金融機関やITベンダーなどの幅広い関係者との丁寧な対話を重ねるとともに、取り組み状況のモニタリングを通じて必要な支援を実施してきました。さらに、ISO20022電文の活用に向けた国際的な会合における議論や意思形成プロセスにも積極的に貢献してきました。

▼本邦を含む多くの法域においてISO20022電文が採用され、その電文仕様が調和されるもとで、今後、国際送金における送金コストの削減・送金スピードの改善につながることや、事業法人や金融機関等における各種事務の高度化・効率化につながることを期待されます。

▼日銀ネットの有効活用に向けた協議会に関する最新情報は、日本銀行ホームページをご覧ください。



「決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会 (第八回)」を開催(十二月)

▼決済機構局では、二〇二五年十二月十五日に標記会合を開催しました。

▼会合では、主に①クロスボーダー送金の改善に向けた取り組みと、②AML/CFT(注)の取り組みの二点について紹介され、参加者間で意見交換が行われました。

▼①では、金融安定理事会(FSB)の「クロスボーダー送金の改善に向けたG20ロードマップ:2025年統合進捗報告書」から、クロスボーダー送金の課題解決に向けたグローバルでの取り組みの状況が説明されたほか、官民の参加者から、ISO20022移行の効果や実務の

プロセスの変化について紹介されました。参加者からは、特に、クロスボーダー送金の課題の一つであるスピードに関して、本邦ではシステム対応コストや顧客ニーズなどの論点があることが指摘され、その上でロードマップ達成に向けて、引き続き官民の意見交換が必要といった提言がありました。

▼②では、AML/CFTに関する金融活動作業部会(FATF)をはじめとしたマネロンに関する国際的な議論の動向や、国内の金融犯罪対策の現状や課題について紹介されました。参加者からは、AML/CFTとクロスボーダー送金の改善を両立させる際に生じる課題や、リスクベースアプローチの取り組み事例などが共有されました。

▼本会合の議事概要などは、日本銀行ホームページをご覧ください。



(注) マネーロンタリング対策およびテロ資金供与対策などを指す。

日本銀行本店本館竣工 130周年
テーマ展

にちぎん 本館誕生!

—日本橋・江戸桜通りへようこそ—
2026

2026年2月17日(火)
>>>>> 5月24日(日)

土日開館 * 入館無料

開館時間 9時30分～16時30分(最終入館は16時まで)
休館日 月曜日(ただし、祝日は開館)
開館時間延長 3月19日(火)～4月5日(日)
17時30分まで(最終入館は17時まで)
特別開館日 3月23日(月)、30日(月)、4月27日(月)
3月22日(日) 関連イベント開催!
詳細は貨幣博物館HPをご覧ください。



貨幣博物館
CURRENCY MUSEUM

地下鉄 三越前駅(B1出口)から徒歩1分
銀座線 三越前駅(A5出口)から徒歩2分
東西線 日本橋駅(A4出口)から徒歩6分
JR 東京駅 日本橋口から徒歩8分
神田駅 南口から徒歩9分




『日本銀行建築譜』より「一般矩計詳細図」



東京名所 日本銀行

金融研究所貨幣博物館
テーマ展
「にちぎん本館誕生！」
—日本橋・江戸桜通りへようこそ—「二〇二六」
開催中

五月二十四日(日)まで

▼日本橋にある日本銀行貨幣博物館の前の通りは、二〇〇五年に「江戸桜通り」と命名されました。春には日本銀行本店本館(竣工：一八九六年、設計：辰野金吾、重要文化財)を背景に美しい桜並木をお楽しみいただけます。そして今年の春、本館は竣工一三〇周年を迎えます。その凶

面や明治期の日本銀行の錦絵および写真、そして桜と共に描かれた日本橋にあった金融機関の建物の錦絵をご紹介します。

【入館料】無料

【休館日】月曜日(ただし祝日は開館)、年末年始(十二月二十九日～一月四日)

【開館時間】午前九時三十分～午後四時三十分(入館は午後四時まで)

※テーマ展開催期間中の開館時間について

四月五日(日)までは、開館時間を午後五時三十分まで延長します(最終入館：午後五時まで)

編集後記

■ ミラノ・コルティナ五輪では、日本チームが冬季五輪史上最多のメダルを獲得。りくりゅうペアらの活躍に感動しました。今号の「インタビュー」では、フィギュアスケートで日本男子初のオリンピックメダリストとなった高橋大輔さんにお話を伺いました。ソフトな語り口ながら、大事な時期に大けがを負っても「休める！ 運がいいな」と気持ちを切り替え、本番では「五輪を全力で楽しんでやろう」と思えたところと話をすると、極限状態の中で持てる力を発揮するメダリストの強さを感じました。

■ 「対談」では、劇団四季の吉田社長と小枝審議委員が語り合いました。戦争で荒廃した子どもたちの心に演劇を通じて豊かな心と考え、浅利慶太氏がスタートしたファミリーミュージカル。スターを作らず、スタッフも含めて全ての劇団員が心を一つに作品に向き合うからこそ、観客の心に響くのだと思います。

■ 「地域の底力」では、佐渡市取材しました。日本産トキが絶滅したニュースをご記憶の方も多いと思います。この20年の自然との共生の取り組みにより、野生のトキが600羽ほどにまで回復したそうです。今号を通じて、生きることの喜びや感動、素晴らしさを感じていただければ幸いです。

(村國)

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (https://www.boj.or.jp) をご覧ください。

にちぎん 2026年春号
編集・発行人 村國 聡
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎ 03-3277-1947

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載

【特別開館日】三月三十日(月)、
四月二十七日(月)

※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。



【所在地】東京都中央区日本橋

本石町一―三―一

【お問い合わせ先】

金融研究所貨幣博物館

〇三―三二七―七三〇三七



貨幣博物館前の桜



夕暮れの江戸桜通り

新卒採用エントリーシート
の受付開始

▼日本銀行は、三月一日から新卒採用(総合職、特定職、一般職)のエントリーシートの受付を開始しました。詳細は、日本銀行ホームページをご覧ください。

